

各 位

| | |
|---------|-------------------|
| 上場会社名 | ミニストップ株式会社 |
| 代表者 | 代表取締役社長 宮下 直行 |
| (コード番号) | 9946) |
| 問合せ先責任者 | 取締役執行役員管理担当 伊藤 嘉規 |
| (TEL) | 043-212-6472) |

平成29年2月期 連結業績予想の修正に関するお知らせ

平成28年4月13日に公表した平成29年2月期の第2四半期累計期間および通期の連結業績予想を下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

● 業績予想の修正について

平成29年2月期第2四半期(累計)連結業績予想数値の修正(平成28年3月1日～平成28年8月31日)

| | 営業総収入 | 営業利益 | 経常利益 | 親会社株主に帰属する四半期純利益 | 1株当たり四半期純利益 |
|-----------------------------------|---------|-------|--------|------------------|-------------|
| | 百万円 | 百万円 | 百万円 | 百万円 | 円 銭 |
| 前回発表予想(A) | 106,700 | 2,550 | 3,250 | 1,550 | 53.52 |
| 今回修正予想(B) | 100,400 | 1,560 | 2,000 | 700 | 24.16 |
| 増減額(B-A) | △6,300 | △990 | △1,250 | △850 | |
| 増減率(%) | △5.9 | △38.8 | △38.5 | △54.8 | |
| (ご参考)前期第2四半期実績 (平成28年2月期第2四半期) | 96,743 | 2,709 | 3,249 | 1,389 | 47.99 |

平成29年2月期通期連結業績予想数値の修正(平成28年3月1日～平成29年2月28日)

| | 営業総収入 | 営業利益 | 経常利益 | 親会社株主に帰属する当期純利益 | 1株当たり当期純利益 |
|-------------------------|---------|-------|--------|-----------------|------------|
| | 百万円 | 百万円 | 百万円 | 百万円 | 円 銭 |
| 前回発表予想(A) | 210,000 | 2,600 | 3,750 | 1,000 | 34.53 |
| 今回修正予想(B) | 199,000 | 1,650 | 2,500 | 200 | 6.91 |
| 増減額(B-A) | △11,000 | △950 | △1,250 | △800 | |
| 増減率(%) | △5.2 | △36.5 | △33.3 | △80.0 | |
| (ご参考)前期実績 (平成28年2月期) | 213,528 | 2,597 | 3,653 | 968 | 33.44 |

修正の理由

第2四半期連結累計期間の業績予想の修正理由は、ミニストップ(株)および韓国ミニストップ(株)の売上高が公表の前提から乖離したことにより、営業利益が公表を下回る見通しとなったことによります。また、主に営業利益の公表差が経常利益、親会社株主に帰属する四半期純利益に影響しました。

ミニストップ(株)につきましては、今期はコールドスイーツの新規商品投入数の増加やテレビCMの放映、チルド寿司やサンドイッチ、オリジナル商品などの商品開発、積極的な店舗改装等の売上向上策を実施してまいりました。これらの取り組みにより既存店1店1日当たりの売上高前年同期比は100.0%となったものの、春先からの個人消費の停滞感、夏場の天候不順等により、公表の前提101.5%を下回りました。また、店内加工ファストフードの売上構成比が計画を下回った影響により、売上総利益率の前提31.8%に対し31.5%となりました。以上の結果、ミニストップ(株)の営業利益は連結公表の前提2,400百万円に対して1,750百万円、差異が▲650百万円となる見通しとなりました。

韓国ミニストップ(株)につきましては、店内加工ファストフードや即食の強化、店舗の大型化などの売上施策を実施いたしました。順調に出店数を伸ばす一方で、欧州の経済的混乱や中国経済の減速による韓国経済の低迷等の原因により、既存店1店1日当たりの売上高前年同期比は連結公表の前提102.5%に対し100.5%となりました。また、期中平均の対円ウォンレートが前提の1ウォン当たり0.1050円に対し0.0927円となりました。以上により、営業利益は連結公表の前提850百万円に対し400百万円、差異が▲450百万円となる見通しとなりました。

以上の結果、第2四半期連結累計期間の営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する四半期純利益は計画を下回る見通しとなりました。

当初計画した下期の利益計画は維持できる見通しですが、通期の営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する当期純

利益につきましては、上期の計画差を取り戻すことはできず、通期の業績予想を修正いたします。

なお、配当金につきましては、1株当たり中間配当22.5円、期末配当22.5円(年間合計45円)としており、当初の予想から変更しておりません。

(注)業績の予想につきましては、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであります。実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる結果となる可能性があります。

以 上